

予てより会員の方々からご要望いただいていたテーピング研修会を、1月22日に青森県立中央病院内の研修室およびリハビリテーション部をお借りして開催いたしました。事前の応募期間が比較的短かったにもかかわらず、70名を超える沢山の方々にご参加いただきました。参加者とスポーツとの関わりも医師、トレーナー、セラピスト、看護師、スポーツ指導者など多岐に及び、様々な立場から幅広く参加いただきました。テーピングはスポーツ現場で傷害予防や応急処置としてニーズの高い手技のため、皆様の関心も大変高かったようです。

当日は、青森県アスレティックトレーナーの会にもご協力いただき、日本体育協会公認アスレティックトレーナーである佐藤誠剛先生（弘前記念病院）、桜田慎司先生（JKD サクラダスポーツメディカル接骨院）、大里洋志先生（おおさと接骨院）、須藤宗先生（青森県立中央病院）に講師をお願いいたしました。前半の講義ではテーピングの理論、種類、基本的手技などを解説いただき、後半の実技実習では、スポーツ傷害として頻度の高い足関節捻挫およびアキレス腱障害に対するテーピングを指導いただきました。講義メモを取ったり実技の手ほどきを直接受けたりと、熱心に取り組む様子が随所で見受けられました。3回、4回と手技を繰り返すごとに、徐々に上達するのを実感されていた方も多かったようで、「大変勉強になった」、「コツがわかった」などの声を各テーブルからいただきました。



今回は初めての試みという事で何かと不十分な所もあり、参加者の中には物足りなさを感じた方もいらっしゃったかと思えます。次回の企画では是非今回の反省点を生かし、より多くの方にとって有益なものにいたしたいと思えます。最後になりましたが本研修会の開催にあたり、会場提供から設営までご尽力いただきました青森県立中央病院リハビリテーション科の皆様、当日の運営にご協力いただきました弘前大学整形外科の山本祐司先生、講師をお引き受けいただきました4名のアスレティックトレーナーの先生には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。